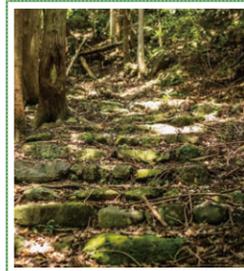


創建1600年を迎える古社



■追加登録された世界遺産
2004年に世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」。構成資産の再調査などを行い、2016年には22地点が追加登録された。追加区間の総延長は40.1km。登録された総延長は347.7kmにも及ぶ。

追加登録された大辺路・新田平見道

「弁慶、ゆかりの地としても知られる^{とよひいじんじ}鬮雞神社。その起源は^{いのかみ}仮庵山への自然崇拜とされ、419年を創建とし今年で1600年を迎える。中世になり熊野三山への巡礼が盛んになると熊野古道の要所として栄え、後に熊野三所権現が勧請されると熊野三山の別宮的な神社として多くの参拝者が訪れるようになった。当初は「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産として登録されなかったものの、その重要性が評価され2016年に追加登録された。和歌山県の世界遺産は今も進化を続けている。

■鎮守の森は、タイムカプセル

世界的博物学者の南方熊樺は鬮雞神社との縁も深く、仮庵山を「クラガリ山」と呼び粘菌の研究場所にしていたという。「鎮守の森は神聖なだけでなく、豊かな生態系が保たれ、また信仰心や歴史のタイムカプセルでもあり、開発などから守る必要があります」と語るのは長澤好晃^{ながさわこうあき}宮司。照葉樹林の中にイヌマキやクスノキなどが散在し、古代祭祀場跡も発見され、古の信仰の姿が残されているという。

鬮雞神社
住所／田辺市東陽1-1 電話／0739-22-0155

公共交通機関の利便性も進化

■熊野～高野間で直通バス運行

「熊野三山を巡った後、折角だから高野山にも寄ってみたい」。しかしこの二つの聖地を巡るためには接続が不十分で、移動だけで1日近くかかっていた。そこで行政と民間の交通機関がタッグを組み、2016年から二つの聖地を巡る「世界遺産「高野山・熊野」聖地巡礼バス」の運行が始まった。これは現代版参詣道ともいえ、「紀伊山地の霊場と参詣道」の魅力はさらに進化し続けている。

和歌山県観光振興課 電話／073-441-2775



■期間／2019年4月1日(月)～2019年11月30日(土)
〈平日1往復(午前便)、土日祝2往復(午前・午後便)〉
■運行区間／高野山駅前～本宮大社前
【バスの運行に関しては】南海りんかんバス 電話／0736-56-2250
龍神自動車 電話／0739-22-2100



■路線バスを利用しやすく

熊野三山周辺を運行するバス会社は4社あり、それぞれバス停の掲示物の仕様が異なり、外国人旅行者にとって分かりにくいものであった。そこで県と4社のバス会社等が連携して、バス停の掲示物の仕様の統一や多言語情報の充実、系統番号の導入等を実施。さらに、これらの情報をまとめた外国語版パンフレットを作成。世界に向けての魅力発信と、サービスの充実は世界遺産の進化に不可欠な条件である。和歌山県観光交流課 電話／073-441-2785

進化する熊野

自然と寄り添い、共に生きる。
人と人の繋がりが深い熊野は、
互いに影響しあって進化を続ける。

■熊野で見つけた新しい生き方

大学のゼミ活動で何度も熊野を訪れ、卒業後すぐ友人4人で「くまのこ食堂」を開店した森岡雅勝さん。「年配の方たちが、若い僕たちと対等に接してくれるのが新鮮でした。熊野は世界遺産であり、どこにもない魅力があります。また田舎ゆえに家賃が安く経費が抑えられるなど、都会にはないビジネスチャンスが溢れています」。これからの熊野の進化を支えるひとつの形であり、今後も彼らから目が離せない。

くまのこ食堂
住所／田辺市中宮町本宮452-1
電話／0735-30-0878



①自分たちでリノベーションしたくまのこ食堂の店内。②現在26歳の森岡さん。今では地元の若い人たちとフットサルチームを作り楽しんでいる。③ヤタガラスをモチーフにしたロゴマークも素材が可愛い。④地元の狸さんが獲ったシカをローストした丼。



熊野に住んで感じたのは、人々の思いやりの心やおすそ分け文化のありがたさ。本当に日々感謝しています。そして毎日写真でも撮りたくなるような時間の連続です。

熊野の進化を支えるのは、人々の思いやりのココロ。

■驚きと感動の思いやり、それが熊野の文化。

田辺市中辺路町野中でGuest house MUIを営むのは、生まれも育ちも東京の宮原正太さん。中辺路に何度か来る間に魅力を感じ、「地域おこし協力隊」に参加、その後ゲストハウスを始めた。宿泊施設運営の経験がない宮原さんにノウハウを教えてくださいました。熊野で気付かされたのは、自分たちがどれほど時間に追われていたかということです。移住を決意したのは、一言で言えば人と古道に引き寄せられたんでしょうね。熊野での生活は感動

的な風景ばかりです」。移住の準備をしながら、夫婦二人でサンティアゴ巡礼の道を歩いたが、その経験は熊野古道を歩く海外の方と接する際に、非常に参考になったという。「宿泊客の9割が海外の方で、話は世界情勢など多岐にわたり、かなり国際的。こんな田舎でこんなに外国人に出会えるとは思いませんでした」。熊野に魅せられた移住者が新たな魅力で人々を笑顔にしている。

Guest house MUI(ゲストハウスMUI)
住所／田辺市中辺路町野中284-5
電話／080-6700-1617



①様々な国の言語で宿泊の感想が書かれている宿泊者帳。②食事部屋の壁一面に貼られている巨大な世界地図。宿泊者は出身国にピンなどで印を残す。③熊野古道とサンティアゴ巡礼の道の両方を歩いた方に贈呈される「DUAL PILGRIM」のバッジ。④オーナーの宮原正太さん(左)と奥さんのくみさん。ヤギのハルとレインは外国からの宿泊者に癒されると人気。